



# 運動の楽しさや喜びを味わい、 主体的・協働的に取り組む児童の育成 ～運動や健康の課題を解決するために～



## 研究の目的

本校の児童の運動に関わる課題として、運動を自らする児童としない児童、体力の二極化、体力テスト結果の種目間差、平均値の低い種目がみられることや、身のこなしを高めるための幅広い運動経験が少ないこと、全力を出し切ったり、体を動かしたりすることの価値や気持ちよさを体感していないこと、話し方や聞き方を含めた人との関わり方が上手ではないという実態があった。

また、教師もこの実態を踏まえ、「運動に対し苦手意識のある児童にも運動が好きになってほしい」「体力向上とともに協力し合う心や互いのよさを認め合える児童になってほしい」という願いがあった。新たに学習指導要領が告示され、主体的・協働的に取り組む児童を育成するためには、これらの実態の改善策として「授業改善」「環境づくり」等について先行研究をもとに実践研究を行い、指導力向上を目指して研究主題に取り組むこととした。

## 研究のキーワード

授業改善

教職員の研修

豊玉小の児童

体育的活動

環境づくり



# 研究の構想と視点

## 【学習指導要領】

- 特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする
- 自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う
- 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指す

## 教育目標

考える子  
ねばり強い子  
心ゆたかな子

運動の楽しさや喜びを味わい  
～運動や健康の

## 授業改善のために

- ① 休み時間の様子や日常の学習の様子、意識調査等から、児童を多面的に理解する。
- ② 実技研修を通して教師が運動そのものの理解を深める。
- ③ ユニバーサルデザインの考え方に立ち、児童が主体的に運動学習に取り組む単元づくりを行う。
- ④ 運動内容によって、休み時間等、授業以外でも取り組めるよう配慮する。

## 目指す児童像

友達と一緒に体と動かし、その楽しさを感じることができる児童

低学年

進んで運動するとともに、友達の考えや動きのよさに気づき、伝えられる児童

中学年

互いに関わり合いながら、友達のよいところを自分の動きに生かそうとする児童

高学年

## 仮説

「指導計画の工夫」、「指導方法の工夫」、「評価の工夫」を行うことにより、児童は進んで運動する力を身に付け、運動の楽しさや喜びを味わうことができ、一人一人の児童の力が高まるだろう。

### ● 指導計画の工夫

運動が得意な子も不得意な子も一人一人がめあてをもち、進んで運動に取り組むことができる指導計画。

### ● 指導方法の工夫

一人一人が運動の特性を十分に味わえる学習形態・学習の場・補助の仕方・言葉掛けなどの指導方法。

### ● 評価の工夫

学習カードを活用して、運動への意欲が次時につながるような振り返りができる評価。

## 研究の目的

### 【教師の願い】

- 苦手意識のある児童にもより運動が好きになってほしい。
- 体力向上とともに協力し合う心や互いのよさを認め合える児童にしたい。

## 主体的・協働的に取り組む児童の育成 の課題を 解決するために～

### 環境づくりのために

#### 体育的活動・運動遊び等の充実

#### 運動や運動遊びに親しむ環境づくり

- ① これまで実施してきた縄跳び、持久走等の全校で行う体育的活動に加え、委員会活動の企画として「練豊ピック」(スポーツレクレーション)を休み時間に実施する。
- ② 生活時程を見直し、休み時間を5分延長させるとともに、全校での校庭遊びとする。
- ③ アスリートによる実演、指導、講演等、特別授業を実施する。
- ④ 体育館も利用し、休み時間に運動遊びができるようにする。
- ⑤ これまで使用していなかった屋上を活用した運動遊びを実施する。(縦割り班活動、授業)
- ⑥ 一輪車、竹馬、ボール等、使用できる用具の範囲を拡大する。
- ⑦ 体力テストを年間2回実施する。
- ⑧ 1人1つ、マイボールを所有する。(1～3年)
- ⑨ 学童クラブや放課後子供教室と運動用具を共有化する。
- ⑩ 投てき板及び固定施設等を大改修する。



#### 体力テストの年間2回の実施 縦割り班での取組



## 1年 表現リズム遊び「表現遊び」

### 1 児童の学習状況

体を動かして遊んだり、運動したりすることを好んでおり、体育の時間を楽しみにしている児童が多い。児童にとっての表現遊びの学習の仕方は、現段階ではイメージしにくい状況にある。楽しい雰囲気の中で、まず、自分なりに踊り、友達の良いところを真似るなどして、自分で考えた動きを表現できるようにしていく。

息を合わせてやろう。



### 2 単元構成の特徴

- ① **指導計画の工夫** 1単位時間の中で、心と体をほぐすためのリズム遊びと、そのものになりきって表現して楽しむための表現遊びに取り組みさせた。
- ② **指導方法の工夫** リズム遊びでは軽快なリズムの曲を使い、表現遊びでは、特徴のある動きを多く含む身近な生き物を題材として取り上げた。動きに変化をつけて踊れるよう、急変する場面を取り入れた。
- ③ **評価の工夫** 学習カードを活用し、児童の態度、思考・判断を把握できるようにした。

### 3 成果と改善点

ダンゴムシになったよ。



○自分なりの特徴を捉えた動きができるようになるとともに、体全体を使って踊ることができるようになってきた。また、友達と関わりながら踊る楽しさも味わうことができた。リズム遊びを授業の前半に行うことで、踊る雰囲気作りができた。  
△特徴を捉えて踊っている児童の動きを取り上げ、その良さをより具体的でわかりやすい言葉で称賛することで、動きを引き出したり、全体に広めたりすることも必要であった。

## 2年 体づくり運動「多様な動きをつくる運動遊び」(体のバランスと用具)

講師：NPO法人健康・体育活性化センター理事長 藤崎 敬 先生

### 1 児童の学習状況

体育の授業を楽しんでいる児童が多い。用具を操作する動きを苦手とする児童もいるため、友達と一緒に体を動かす楽しさを味わうことができるような運動遊びを取り入れ、用具を操作する動きに重点を置いた。

### 2 単元構成の特徴

- ① **指導計画の工夫** 1単位時間の中に異なる2つの運動遊びを取り組みさせた。
- ② **指導方法の工夫** ロの字型の場を設定した。基本的な動きを基にして、人数、用具、高さ、方向などを変化させた。一人での活動からペア、グループ活動へと運動の行い方を変化させた。
- ③ **評価の工夫** カードを活用し、児童の運動、態度、思考・判断の状況を把握することができるようにした。

### 3 成果と改善点

○児童自身で運動する人数を増やしたり、遊び方に変化を付けたりして、工夫をすることができた。  
△学習活動の内容が多く、児童が一つ一つの運動に十分に取り組みなかった。ねらいと児童の実態を踏まえて、本時の活動内容を精選する必要があった。

高さを工夫してみたよ。

豊玉流 忍術修行で  
ボールを運ぼう

たくさんの友達とでできたよ。



## 3年 器械運動「鉄棒運動」

講師：練馬区教育委員会 指導主事 板澤 絢子 先生

### 1 児童の学習状況

体を動かすことが好きな児童が多いが、鉄棒遊びに対しては「怖い」「痛い」等と感じている児童が3割おり、全体の6割は週に一度も休み時間に鉄棒で遊んでいない。一方で、技ができることや友達や先生と関わり合うことが楽しいと感じる児童が多い。そこで、安全面の指導や技のポイントを分かりやすく示すこと、教師や友達からの称賛の言葉がけをすることで意欲的に学習を進められるようにした。

友達のどのポイントを見ているの？



「鉄棒より前に足を踏み込む」が、できているか見てます。

### 2 単元構成の特徴

- ① **指導計画の工夫** 毎時間「リズム鉄棒（今もっている力で取り組む時間）」、「グループタイム（チェックタイム）」を設定し単元を構成した。
- ② **指導方法の工夫** 技ができるまでの過程を重視した学習カードの作成、技のポイントの精選、見合う活動（3人組）、言葉かけ集（アドバイスカード）の活用、安全面の指導を取り入れた。
- ③ **評価の工夫** 身に付けたい技の動き方や技のポイントを理解し、課題や達成度を確認できるカードにした。

### 3 成果と改善点



- 毎時間リズム鉄棒に取り組んだことで「つばめ」「ふとんほし」のような基本となる技を全員ができるようになった。また、休み時間に運動する児童が増えた。
- 児童が互いに見合うことで、声をかけ合って喜ぶ姿が見られた。
- △技ができたかどうかの判断が曖昧な時があり、教師が確認する場面も必要であった。

## 4年 走・跳の運動「高跳び」

### 1 児童の学習状況

体育の授業を楽しんでいる児童が多い。跳の運動「高跳び」については、約8割の児童が知らないと答えた。この結果から、単元の導入では、小集団で自由に高さを変えながら十分に跳べる時間を確保していき、その運動自体がもっている楽しさを味わわせる段階を経て、自己の課題に取り組めるようにした。

場を工夫したら跳べたよ。



### 2 単元構成の特徴

- ① **指導計画の工夫** 毎時間「基礎となる感覚を身に付ける時間」「ポイントタイム」「レベルアップ・チャレンジタイム」を設定し、単元を構成した。
- ② **指導方法の工夫** グループ学習の設定、学習資料の活用、練習の場の工夫など、単元を通して動きのポイントを理解する場面を多く設定した。
- ③ **評価の工夫** 学習カードに動き方や動きのポイントを載せることで、自己の学習状況を理解できるようにした。

### 3 成果と改善点



どこに気を付けたらうまくいったの？

- グループの中で役割を決めたことで、友達の動きを見ようとする意識が高まり、協働的に関わり合う姿が多く見られた。
- リストバンドを足に着用することで、助走から踏切足までが視覚的に分かり、よりなめらかに跳べるようになった。
- △動き方や動きのポイントに気付かせるための具体的な手立てを、更に講じる必要があった。

## 5年 ボール運動「ネット型（ソフトバレーボール）」

講師：NPO法人健康・体育活性化センター理事長 藤崎 敬 先生

### 1 児童の学習状況

体を動かすことが好きな児童が多いが、女子を中心にボール運動を苦手としている児童もあり、ボールを巧みに扱う技能が不十分である。ボールを持たないときの動きがわからない児童も多く見られる。



ボールを落とさず続けられた！

### 2 単元構成の特徴

- ① **指導計画の工夫** 毎時間「ウォーミングアップ」の時間に基本的な技能を身に付けられるようにした。
- ② **指導方法の工夫** 練習のポイントやゲームでのマナーを掲示した。作戦板を活用させ、チームの時間を充実させた。声かけの例を示し、励まし合えるように工夫をした。
- ③ **評価の工夫** 教師が行う評価に役立ち、さらに児童が自己評価できる学習カードを作成した。

### 3 成果と改善点



こういう作戦でいこうよ！

- チームでの話し合いの時間を十分に確保したことで、児童の関わり合いが活発になった。
- 「ウォーミングアップ」の時間にチームで円陣パスを行うことで技能が高まり、ゲームでのパスやアタックにつながった。
- △自分のチームの特徴を生かした作戦を立てることはできたが、相手チームの特徴に合わせた作戦を立てられるように手立てを講じる必要があった。

## 6年 器械運動「マット運動」

講師：練馬区教育委員会 教育指導課長 芝田 智昭 先生

指導主事 海馬澤 一人 先生 指導主事 原 僚平 先生

### 1 児童の学習状況

意欲的に運動に取り組む児童が多いが、技によって技能差は大きい。児童が互いに学び合い、関わり合うことに重点を置いて授業を展開した。

### 2 単元構成の特徴

- ① **指導計画の工夫** 毎時間「基礎となる感覚を身に付ける時間」「知る時間」「取り組む時間」を設定し単元を構成した。
- ② **指導方法の工夫** めあて別にグループを編成した。主体的に学ぶための「学習資料の活用」、補助具を活用した「練習する場の工夫」を設定した。
- ③ **評価の工夫** 学習状況が児童も教師もわかる「学習カード」などを活用した。



ここに手を置くといいよ！

### 3 成果と改善点



技のポイントはどこかな。

- 着手点の手形やボールなど場の工夫があり、関わり合いが生まれやすかった。
- 学習資料をグループごとに用意したことで、児童が技のポイントを理解して取り組み、安定して技ができるようになった。
- △グループで互いに声をかけている場面が見られたが、立ち位置や見るポイント、児童同士の具体的な言葉かけが見られるとよかった。

# 授業改善のための実技研修・授業提供

## 第1回実技研修 平成29年5月29日(月) 講師 足立区立足立小学校 富岡 将人 先生

<内容> 東京都小学校体育研究会「多様な動きをつくる運動(遊び)領域部会」の先生をお迎えして、体づくり運動について理論的な内容、心と体をほぐすための体ほぐしの運動から「力試しの運動(遊び)」まで、実技をとおして研修を行った。



## 第2回実技研修 平成29年7月28日(金) 講師 台東区立蔵前小学校 野中 由香 先生

江戸川区立西葛西小学校 森 章 先生

江東区立第一亀戸小学校 中込 圭 先生

<内容> 東京都小学校体育研究会「器械運動系領域部会」の先生方をお迎えして、鉄棒運動についての実技研修を行った。学習指導要領に例示されている基本的な技や発展技について、実技をとおして、技の動きや技のポイントを研修した。



## 都内指導主事の皆様への授業提供 平成29年6月10日(土) 学校公開日

都内の体育を専門とする多くの指導主事の皆様に、授業観察・指導をいただきました。

実施内容 ① 第3学年の鉄棒運動 ② 第5学年のボール運動「ソフトバレーボール」

### <ご指導いただいたポイント>

第3学年では、グループ作りや発表会の方法など授業におけるマネジメントについて。

第5学年では、本時のねらいやネット型ゲームの特性、本時の評価について。



# 環境づくり

## 【全校での体育的活動と練豊ピック】

<体育的活動> 全児童での活動

- ・長なわ学級対抗
- ・ジョギングタイム
- ・短なわ

<練豊ピック>

運動委員会による休み時間の活動

リレー、短距離走、フライングディスク、バレーボール、バスケットボール、サッカーなどのオリンピック競技を全校児童でできるように、ゲーム形式で企画・運営する。



## 【アスリートから学ぶ】

<ゴールボール> ロンドンパラリンピック金メダリストによる全校児童への講演、体験。



<インターカレッジ100m全国8位と>

教育実習生による実技指導、朝会で職員との競走。アスリートに勝利する先生も。



<ジャイアンツアカデミーによる特別教室>

3年生が、投げることを中心に学び、ゲームを楽しむ。



## 【体力テストを年2回実施】

6月と10月に体力テストを行った。2年間にわたる体力の変容がわかる記録カードを作成した。

項目	3年		4年	
	春	秋	春	秋
①握力	右 24 20 19 11	左 23 23 19 14		
②上体起こし	20 2 23			
③鉄棒体操	16 22 3 22 35			
④反復横這ひ	42 31 8 32 38			
⑤20mシャトルラン	66 8 76			
⑥50m走	9 3 7 9 3			
⑦立ち幅跳び	138 146 5 131 152			
⑧ソフトボール投げ	19 22 6 × 21			
合計点				
春と秋をくらべて				
気づいたこと				

## 【休み時間の充実】

- ① 中休み時間を25分間へ
- ② 全児童が外遊び
- ③ 使用できる用具の増加
- ④ 体育館の活用
- ⑤ 縦割り遊びの実施
- ⑥ 授業で扱う運動を休み時間に行えるようにする。



## 【オリンピック・パラリンピック教育】

オリンピック・パラリンピック教育を進めるために、実践内容を校内に掲示した。



## 【施設等の改善】

### ○投てき板や固定施設等の大改修

「投げる」ことに重点をおいて、新たなデザインとした。また、遊具の全面改装、鉄棒下の地面の改修を行い、休み時間も子供たちが遊べる環境を整えた。



### ○屋上の活用

50m走ができるようにしたり、遊びのための目印を描いたりした。また、校庭の遊歩道には、ケンパ等の目安になるマークを付けた。



### ○「マイボール」を持つ

1年生から3年生までに、学年カラーの柔らかなボールを一人一つ用意した。



## 【学童クラブ・放課後子供教室との連携】

学童クラブや放課後の子供教室で、一輪車や竹馬などの用具の貸し出しを行った。

# 児童の変容



【体力テストの結果（春と秋）より】 ☆：都平均を上回った項目 青：春よりも記録が伸びた項目

学年	性別	季節	握力	上体起こし	長座体前屈	20mシャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ソフトボール投げ	
			春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
1年	男子	春	7.9	10.5	26.8	20.0	1.5☆	114.1☆	7.5	
		秋	<b>8.3</b>	<b>12.4☆</b>	26.0	20.0	<b>1.3☆</b>	<b>122.5☆</b>	<b>8.2☆</b>	
1年	女子	春	7.7	10.2	31.1☆	26.5☆	13.2	11.8☆	105.3☆	5.5☆
		秋	<b>8.5</b>	<b>10.9</b>	<b>30.4☆</b>	<b>28.5☆</b>	13.2	11.8☆	105.3☆	<b>6.2☆</b>
2年	男子	春	9.5	14.0☆	26.0	21.8☆	10.8☆	119.7☆	10.2	
		秋	<b>10.7</b>	<b>16.9☆</b>	26.0	22.2☆	10.8☆	119.7☆	<b>11.5</b>	
2年	女子	春	9.0	14.0☆	30.3☆	25.6☆	10.8☆	119.7☆	7.5☆	
		秋	<b>10.8☆</b>	<b>16.9☆</b>	<b>34.2☆</b>	<b>31.8☆</b>	<b>25.0☆</b>	<b>10.7☆</b>	<b>123.3☆</b>	<b>7.9☆</b>
3年	男子	春	12.0	18.4☆	29.9	36.1☆	36.2☆	9.9☆	113.0☆	
		秋	<b>12.2</b>	<b>18.4☆</b>	29.9	<b>35.3☆</b>	<b>39.3☆</b>	<b>10.3</b>	<b>113.0☆</b>	
3年	女子	春	12.0	18.4☆	34.9☆	32.9☆	25.7	10.1☆	112.0☆	
		秋	<b>12.2</b>	<b>18.1☆</b>	<b>34.9☆</b>	<b>34.5☆</b>	<b>26.4</b>	<b>10.4</b>	<b>128.9☆</b>	<b>10.4☆</b>
4年	男子	春	14.3	18.2	29.9	34.6	40.6	9.9☆	113.0☆	20.5☆
		秋	<b>15.6☆</b>	<b>18.5☆</b>	<b>30.0☆</b>	<b>34.6</b>	<b>43.8</b>	9.9☆	113.0☆	<b>19.6☆</b>
4年	女子	春	11.9	17.5	33.3	34.6	31.3	9.9☆	113.0☆	10.8
		秋	<b>13.8☆</b>	<b>19.2☆</b>	<b>35.7☆</b>	<b>34.0</b>	<b>30.1</b>	9.9☆	113.0☆	<b>10.5</b>
5年	男子	春	15.2	20.3☆	32.4	42.5☆	56.0☆	9.9☆	113.0☆	20.9
		秋	<b>16.4</b>	<b>22.1☆</b>	<b>33.3</b>	<b>41.9</b>	<b>55.9☆</b>	<b>9.0☆</b>	<b>149.0</b>	<b>20.7</b>
5年	女子	春	13.9	18.6	38.0☆	40.1	39.2	9.4☆	144.7	11.8
		秋	<b>13.9</b>	<b>18.6</b>	<b>38.0☆</b>	<b>40.8☆</b>	<b>40.4</b>	9.4☆	144.7	11.8
6年	男子	春	17.8	20.5	42.0☆	43.7	62.6☆	9.3	159.7☆	13.5
		秋	<b>19.4</b>	<b>22.5☆</b>	<b>36.7☆</b>	<b>45.7☆</b>	<b>60.8☆</b>	<b>8.7</b>	<b>163.9☆</b>	<b>13.6</b>
6年	女子	春	17.8	20.5	42.0☆	43.1☆	44.8	9.3	159.7☆	13.5
		秋	<b>19.4</b>	<b>21.1☆</b>	<b>45.1☆</b>	<b>43.4☆</b>	<b>47.4☆</b>	<b>9.1☆</b>	<b>163.9☆</b>	<b>13.6</b>

上体起こしでは、1年生女子以外、全ての学年で都平均より記録が伸びた。

ソフトボール投げでは、1～3年生にマイボールを待たせることで、1～3年生の記録が伸びた。

握力では、全ての学年で記録が伸びた。

50m走では、3年生と4年生男子の記録が伸びなかった。

反復横跳びでは、3年生男子と4年生、5年生男子の記録が伸びなかった。

ソフトボール投げでは、4年生と5年生男子の記録が伸びなかった。

長座体前屈では、5年生男子以外すべての学年で都平均より記録が伸びた。

20mシャトルランでは、4年生女子、5年生男子、6年生男子の記録が伸びなかった。

## <2回の体力テストを行ってみて>

- ・運動の日常化や秋の運動会を経験し、秋の体力テストでは多くの種目で都の平均値より記録を向上することができた。
- ・反復横跳びでは3年生男子、4年生、5年生男子で、20mシャトルランでは4年生女子、5年生男子、6年生男子で、記録が伸びなかった。体づくり運動を中心に持久力を高める運動や巧みな動きを高める運動を計画的に取り入れたい。さらに、体育的活動、外遊びに意欲的に取り組ませていきたい。
- ・50m走では、3、4年生で記録が伸びなかった。体育の授業で全力で走る運動をさらに取り入れていきたい。また、屋上に設置した50mコースを積極的に活用していきたい。
- ・ソフトボール投げでは、4、5年生で記録が伸びなかった。4年生以上でもマイボール導入を検討し、体育の年間指導計画でボールを投げる経験ができるゲームを積極的に取り入れていきたい。

## 【意識調査より】

### Q1 毎回自分のめあてをもって運動に取り組んでいますか。

(※とても取り組んでいる、取り組んでいる児童の割合)

	3年	4年	5年	6年
11月	84%	79%	68%	85%



6月の結果を受けて、授業の最初にめあてを児童にもたせたことで、約80%の児童がめあてを意識して運動に取り組んでいる。  
(→5年生は今後、改善を要する。)

#### <意識が高まった児童の声>

- ・目標が達成したときや検定で受かったときに楽しい。(3年)
- ・めあてを達成したときうれしい。(3, 5年)
- ・めあてを意識してやるとうまくなれる。(4年)
- ・めあてをもってやると、その時にできなくても、次やった時に直せて上手になる。(4年)

### Q2 友達と一緒に運動に取り組むことは好きですか。

(※とても好き、好きな児童の割合)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
11月	91%	95%	96%	94%	91%	85%



6月の結果を受けて、ペアやトリオ、グループで活動したことで、約90%の児童が友達と一緒に運動に取り組むことを肯定的に捉えている。

#### <意識が高まった児童の声>

- ・ポイントを教え合えて楽しい。(6年)
- ・自分ができないことをできる人から教えてもらえて、できるようになった。(6年)
- ・友達と一緒にできたら楽しい。(6年)

#### <Q2でとても好き、好きと答えた理由>

- ・助け合うとがんばれるから。(1年)
- ・一人より楽しいし、一人じゃできない遊びができるから。(2年)
- ・みんなのいいところが見つけられたり、自分の「よさ」に気が付いたりできるから。(3年)
- ・友達の動きを見て自分の動きに生かすことができるから。(4年)
- ・友達の真似をしてもっとうまくなれるから。(5年)
- ・お互いの様子を見合って上達するから。(6年)

学年が上がるにつれて、情意面のよさから思考・判断面のよさに児童の気付きが変容している。

#### <Q2であまり好きでない、好きではない理由>

- ・自分の言うことに反対されるから。(1年)
- ・けんかになるから。(2, 3年)
- ・恥ずかしいし、馬鹿にされそうだから。(4年)
- ・ミスしたときに責められるから。(5年)
- ・一人でやっている方が集中してできるから。(6年)

#### <今後の課題>

- ・低学年のうちから、体育授業はもちろんのこと、全ての教育活動の中で、よりよい人間関係を築き、より運動しやすい環境をつくっていく。
- ・体育授業や体育的活動で取り組む内容を児童の実態に合ったものに精選していく。

# 研究のまとめ

## 成果

体育科の学習では、児童の実態の把握、運動内容・方法を工夫することにより、運動の楽しさやできた喜びを味わわせることができた。また、児童の励まし合い、称賛、教え合いなど「人との関わり」を大切にする態度が身に付いてきている。

体育的活動等を通して、休み時間には、自分の好きな運動に積極的に取り組み、日常的に外遊びをする習慣が身に付いてきた。

以上の実践を通して、日頃から進んで運動に取り組む児童が増え、体力テストの結果も向上してきており、学校全体の体力の向上が今後も期待できる。

## 授業実践 より

- 児童が、授業で行ったボール遊びを休み時間にしたり、鉄棒の授業後の休み時間に進んで鉄棒遊びをしたりするなど、「運動したい」「できるようにになりたい」と思う気持ちが多くの場合で見られるようになった。
- 学習カード、学習資料、着手点の手形や踏み切り足の足形、ボールなどの補助具等の活用は、主体的な活動につながった。
- 技のアドバイスや補助、ペアやトリオのグループ編成は、協働的な学びに有効であった。
- 作戦板や学習カードを用意したり、作戦タイムの時間を設定したりしたことで、児童が共に運動を楽しもうとする場面が増えた。



## 環境づくり より

- 体育的活動で継続的な運動経験をしたり、休み時間の練豊ピックで運動の楽しさ体験をしたりすることで、休み時間には運動に積極的に取り組む児童、日常的に外遊びをする児童が増えた。
- 休み時間に自由に運動できるよう、一人一人に自分用のボールを持たせたり、ボールを当てる的を大改修したり、ボールをシュートするゴールをフェンスに設置したりすることで、進んでボール遊びをする児童が増えた。また、ボールを投げる身のこなしがよくなったり、コントロールがよくなったりする児童が増えた。
- けがをしたときには自分で水洗いをするなど、日常的な習慣化と保健指導との関係性を意識させ、さらに保健学習で定着させた。



## 課題

- ・ 次期学習指導要領の方針を受け、学習過程や評価の在り方を視点とした更なる授業改善を継続する。
- ・ I C T機器を有効に活用した授業を行う。
- ・ 保護者、地域、関係機関と連携して児童の体力向上と健康の保持・増進を目指す教育活動を展開する。